

今、子どもたちは —特別編—

インターネット!大人と一緒に楽しもう

小須戸公民館報

発行 小須戸町中央公民館
〒956-0101
新潟県中蒲原郡小須戸町
大字小須戸117番地
TEL (0250) 38-2234
FAX (0250) 38-5210
編集 公民館報編集委員会

「西暦二〇〇〇年問題」。年が明けてしばらく経ち、この言葉もそれほど聞かなくなりましなね。

昨年末、水を貯えておいたり、石油ストーブを買ったりなど、いろいろ心配されたお宅もあるのでは?

「コンピューターが誤作動するかもしれない」これだけで世界中が大騒ぎになってしまふ。それだけコンピューターは生活の中に大きく入り込んでいますし、特に情報社会の中では欠かせないものとなっています。

そこで、こんな社会を担っていく子ども達が、今、どのようにしてコンピューターやインターネットと関わっているのか。ちょっと覗いてみましょう。

インターネットはだいたい

こんな使われ方をしています

「インターネット」。この言葉は、耳なれていてと思いきや、だいたいの意味はおわかりでしょう。もちろん「パソコン」や「ネット」とも言われる方もあるはず。では、まったくわからない方に少しだけ説明を。

まず、コンピューター!の電源を入れてインターネットに接続します。そして自分の欲しい情報がある「ホームページ」を開き、様々な情報を得ます。

例えば、今はスキーシーズン。スキー場情報のホームページを開きます。画面に表れてくるのは、いろいろなスキー場の降雪量、規模、施設など。

で、行きたいスキー場が決まったら、そのスキー場のホームページもすぐ見れます。そこでまた細かい情報が得られます。

このように、コンピューターで知りたい情報を、あつという間に得る事ができるわけ。

インターネットに

参加する子ども達

先の例は「ただ情報を得る」というもので都合よく使うだけ。その反対の「参加する」場合があります。

「電子メール」というものがあります。個人対個人のやりとりは日常茶飯事。携帯電話からでも送られるほどあたりまえのコミュニケーションです。

この電子メールを使って見知らぬ子ども同士がコミュニケーションをするホームページがあります。いろいろな子ども達が思い思いの電子メールをそこに送信したり、名前もわからない、住所も知らない子の電子メールをそのホームページで読む事ができます。でも、こんな事をして何が

おもしろいのかな?

共感を求めたり、あるいは(違っていたらゴメンナサイ)うさばらしいな感じもするのですが...

大人もよくあるじゃないですか。仕事でイヤな事があつた。同僚を誘って飲みに行き、うさをはらす。「なあ、俺の気持ちわかるよな。」「うん。わかる、わかる。」「こんな事。おや、こっちの方がお金もかかるし健康にも悪いぞ。」

ホームページ開設も

自己表現の仕方

今では、小学生が個人でホームページを開設しているケースも珍しくはありません。

だいたいが本名ではなく別名で開設されています。そしてご自分にも「電子メール送ってください」と一言載っています。

電子メールを送ってくる相手は名前も知らない、住所も知らない。でも、自分のホームページを見てくれて電子メールが送られてくる。共感を

得てもらいたい。その気持ち

をわかってくれた見知らぬ相手からの電子メール。届けば届くほど嬉しいものでしょう。

その電子メールを送ってくる人も同世代から社会人までいろいろ。その人たちに気が向いた時に電子メールを送る。気軽な付き合いです。

子ども達ばかりでなく大人も、こうしたインターネット上での仲間づくりを心のよりどころの一つとしているのかもしれない。

親子で担おう情報社会

親子で担おう情報社会

今では、インターネット・ショッピングが行われています。ここまですると仮想社会として成り立っているようなもの。

色々な情報がどんどん集められ、その中を様々な人達の電子メールが飛び交い、一つのホームページが見知らぬ人達のたまり場になる。これが世界規模で起きているわけなんです。

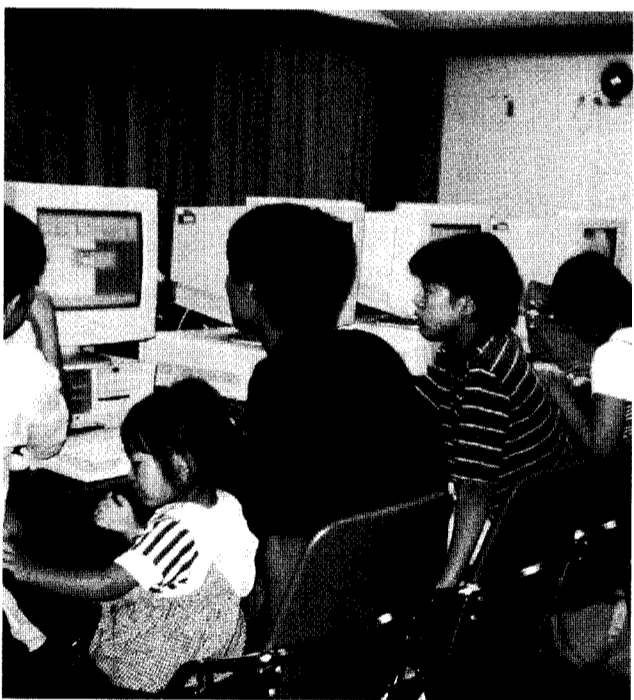
そんな中に若者や子ども達が難なく入りこんでいる。不安な事でしょうか。

しかし、これからは情報社会と言われています。ここでストップをかけるのではなく、社会全体で子ども達を健全にインターネットの世界へ入れる様にしなければならぬでしょう。

それは親や回りの大人達の役目です。

インターネットは仮想の世界。子ども達は割り切っているでしょうし、現実の世界で人と触れ合う事がいかに大切か、きちんと理解していると

思います。



平成10年に開催した「親子で楽しむパソコン教室」の様子。



風の中を、刻の中を、ゆったりと歩く。

小須戸町は新潟県のほぼ中央あたりに位置し、信濃川の右岸に面しています。対岸は白根市、東は新潟市、南は田上町と隣接。矢代田駅の東側には雄大な越後山脈が見渡せます。山、田園、信濃川などの自然に恵まれた、のどかで豊かな町です。昔から花木や盆栽の栽培が盛んで、とくにボケについては、全国第一位の栽培産地となっています。花木や盆栽は関東および東北方面をはじめ全国に出荷され、「花と緑の小須戸」として広く知られています。

小須戸町のホームページの1部です。なお、小須戸町公式のものではありません。

地域の学習リーダー

募集!!

「いつでも・どこでも・だれでも」学ぶことのできる小須戸町にしてみませんか。学校や公民館で行う活動、スポーツ、レクリエーション、文化活動、ボランティア等をひっくるめて生涯学習といえます。小須戸町ではこれを「やろてば学習」と小須戸風に名を変えて行っています。

●子どもも大人も
●素直な心で学び合い
●ドラマチックに夢実現が合い言葉です。

こんな町にするために、あなたの力が必要です。そこで、生涯学習地区推進委員と有志指導者を募集しています。

◎生涯学習地区推進委員
やろてば学習の計画を相談したり、町民の意見を集める。

◎有志指導者
得意とする分野を、町民の希望に応じて指導する。詳しくは、中央公民館にお問い合わせ下さい。

有志指導者の募集
紹介と募集
※すでに全戸配布されたパンフレットです。

掲示板

★町の昔の写真を捜しています

明治、大正、昭和、平成にわたって小須戸町の町並みも変り、昔の面影は薄れていくようです。

そこで町の昔と今を写真で対比させ、振り返ってみたいと思います。ぜひ、写真をお貸しください。ご協力をお願いいたします。

なお、その写真展を後日開催する予定です。公表してもよい写真をお寄せ下さい。

◎昭和三十年代より古い小須戸町の写真(どんな写真でも結構です)

◎サイズ 写真のサイズは問いません。

◎応募先 中央公民館

◎メロ 三月二十一日(水)

◎主催 小須戸町写真教室

※ お借りした写真は、お返しします。写真展の開催日等は公民館報でお知らせします。

健康体操のおさそい!!

二月から「健和クラブ」では、ラジオ体操や「みんなの体操」を行います。

多くの皆さんのお越しをお待ちしております。

日時 毎週火曜日
午後七時三十分

会場 中央公民館三階ホール

内容 ラジオ体操一、二、みんなの体操・ストレッチ・チューブ体操、ほか健康に関する体操の実技等々。

指導者 渡辺和義、白井巳致子、高山泰栄

主催 小須戸町ラジオ体操普及の会

問い合わせ 森田登三(三三三) 木村定三(三二五)

県立新津南高等学校 「学校開放講座」 二十四名修了

今年度で六回目を迎えた、県立新津南高等学校「学校開放講座」が、一月二十九日(土)に閉校しました。

樋浦校長先生を始め十名の講師陣より専門的な分野を丁寧な講話していただきました。

講義内容は、古典・地理・世界史そして科学手品にいたるまで多種多様にわたる講座でした。

生活に密着した学科や、一つのテーマをじっくりと勉強する学科など、受講生の方々から「とても楽しく勉強させていられました。先生方の工夫をこらした講義に感激していらつやいました。

一生懸命に学習した受講生のみならず、大変ご苦労様でした。



ちょこっと一言 (143)

健康が一番

三年ほど前、職場でのソフトボール大会のとき、ちょっとボールを追っかけてただけで息はキレギレ、汗はだらだら最後には足が肉離れ...

それこそはず、そのころは運動と言えぬものは何一つしてなく通勤も車でほとんど歩かず、おまけにタバコや暴飲暴食。まさに不摂生を絵に描い



横山靖史さん

たような生活だった。丁度同じ頃「胃痛」とともに体が黄色信号を点し、これでは駄目だと思いつつも、きつかけがなとなかなかできないのが運動。そんなとき、町内の方からテニスに誘ってもらい、始めた。それを機会に食生活も悔い改め、今では体重も昔に近づき体調の良さも感じている。

去年から小須戸町のテニスグループにも入っていたき下手ながら頑張っている。

最後にやっぱり健康が一番!

図書だより

〈新刊案内〉

- 中央公民館
 - 夜明けの雷鳴 吉村 昭
 - M(エム) 馳 星周
 - 王国記 花村 萬月
 - 生(レア) 山口 洋子
 - 彼女のプレнка 中上 紀
 - 春雷 伊集院 静
 - 死国 坂東眞砂子
 - シエラザード(上・下) 浅田 次郎
 - はぐれの刺客 澤田ふじ子
 - 長崎ぶらぶら節 なかにし礼
 - 告発捜査 松木 麗
 - 葵 徳川三代(上) ジェームス三木
 - 40歳からの子育て 南 美希子
 - ある日突然、妻が痴ほう症になった 内藤 聡
 - 子供を喰う教師たち 鶴川 昇
 - 孫正義大いに語る!! 竹村 健一
- ふれあい会館
 - 月の砂漠をさばさばと 北村 薫
 - スピカ 高嶋 哲夫
 - 木曜組曲 恩田 陸
 - 太陽の人 岡本太郎
 - 姑と嫁 岡本 敏子
 - 三田 恭子
 - 他十冊

VOICE & VOICES 私は思う 私を考える

川原の思ひ出

その昔、小須戸橋から上流一帯は、畑と広い茅の原だった。

晩秋の風が川面を吹き抜ける頃、腰を伸ばして一息つく川原の岸辺一面に生えた茅のこすれあう音がサラサラとさわやかに聞こえた。

茅は、人の倍もある高さまで生長して様々な用途に使われたが、主に畑のツルものの作物用や、茅葺き屋根の材料として年に一回、部落総出の茅刈り行事があった。

刈った茅は、一束ごとに藁で縛る、広い川原の茅がみるみるうちに刈り取られてゆくそれを荷車まで運ぶのが子どもの仕事だった。

大人も子どもも楽しく働いた。刈り終わると畑から良く見えなかった信濃川が目前に現れ、ゆつたりと流れている。子どもの目には、なんと大きな川に見えたことか。

いつの間にか夕焼けが川面を染めている「お、い、かえるろ」茅をいっばいに積んだりヤカーを押して家路を急ぐ。そんな行事にはいつも子ども達も達がいた。がさつな会話の中に地域の人達の交流があつていんな事を学んだような気がする。

半世紀も前の思い出だが、今は、すばらしい公園に姿を変えた。時々散歩をしながら耳をすますとあの頃の茅の音が聞こえてくるようだ。

もうすぐ岸辺に生えたネコヤナギが白い芽を吹く。

— 思い出老人より —

シリーズ

「今、子どもたちは」 (42)

お兄さんお姉さんありがとう

小須戸幼稚園

年の瀬も近い十二月中旬、小須戸小学校の四年生が幼稚園に再びこられました。

この前の訪問では、園児の靴棚や遊戯室をのぞいて、このたびは年長組の五歳児に、小学校とはこんな所ですと手作りの紙芝居を使って話をしてくれました。

日ごろ、園ではお兄ちゃんお姉ちゃんぶりを発揮している五歳児も、大きな四年生を目の前にすると、少し緊張がみでしたが、みんな行儀よくお話を聞いていました。

説明が一段落した頃、お礼の歌「あわてんぼうのサンタクロース」を一緒に歌い、な



文芸欄

- 梅が枝の途行き斯行き去年今年 吉田素糸
- 山ひとつづつ明けて来し貝割菜 坂井隆思
- 護符を焼く過去の炎の立ち上がる 田中美根子
- 吾子洗ふごと大根の幾百本 中野太浪
- 雨に日に男を磨き榎櫃の実 丸山虚秋
- 沐浴の手順にもなれ去年今年 須藤恵美子
- 寒に入り庭に雪なく陽の満ちて 長井武雄
- 老杉の梢に若き寒の月 藤井 春
- 工事小屋咲笑の湧く焚火の輪 渡邊信子
- 成人の娘初鏡より出かけ行く 長井武雄
- 初鏡増えた白髪を粋にして 藤井春江
- 役終えてお腹に入る鏡餅 古川多主
- 二〇〇〇年しあわせ願う鏡餅 小林みのる